

## [報告]第 26 回歴史地震研究会(大津大会)開催報告

歴史地震研究会行事幹事 小松原 琢

去る 2009 年 9 月 12 日(土)～14 日(月)に、滋賀県大津市において第 26 回歴史地震研究会(大津大会)を開催いたしました。

この大会は、滋賀県および大津市にご後援を頂き、大津市浜大津(旧大津城跡)の大津市ふれあいプラザにて研究発表会と公開フォーラムを開き、滋賀県西部で巡検を行ったものです。

研究発表会(12 日と 13 日午前)には約 60 名の参加者が集まり、27 件の口頭発表と 10 件のポスター発表がなされました。予想以上に発表件数が多かったためプログラム編成が難しく、口頭発表希望の方にポスター発表へと替わって頂く方も出る事態となりました。

公開フォーラム(13 日午後)「近江の国の歴史地震～歴史に学ぶ地震防災～」は滋賀県民の皆様(70 人程度)が集まり、①宇佐美龍夫会員講演「近江国南部の歴史地震」②中島健氏(滋賀県立守山中学・高等学校教諭)講演「もしも地震がなかったら・・・」③小椋正清氏(滋賀県防災危機管理局长)講演「災害に強い地域づくりについて」の講演のあと、植村善博会員の司会による自由討論で盛り上がりました。琵琶湖西岸地震の発生危険性が新聞をにぎわしていたこともあり、多くの質問がフロアから寄せられました。

巡検(14 日)は西山昭仁・今村隆正・植村善博・小松原琢および金田平太郎の 5 会員の引率により「湖西の地震史跡をたずねて」と題して元暦京都地震(1185 年)および寛文近江若狭地震などに関連する地震史跡(膳所城跡・堅田断層ジオスライサー調査地点・白鬚神社・朽木陣屋跡・町井崩れ・葛川明王院)を訪ね、京都駅で解散しました。この巡検には 36 人の研究会会員のほか、滋賀県防災危機管理局から 3 名、防災士会滋賀県支部から 1 名の方が参加されました。好天に恵まれた巡検でしたが、特に堅田断層ジオスライサー地点の周辺では都市整備事業が始まっており、大部分の参加者にとって当地の自然の断層地形を観察する最後の機会となったのではないのでしょうか。堅田断層が元暦地震で動いたなら平安時代の堅田は地表の 2～3m 下に埋まっているはずではないか(堅田断層調査地点にて)、寛文近江若狭地震は双子

地震だったのかどうか?(朽木陣屋跡にて)、町居崩れの規模について従来の研究では過大評価されてきた(町井崩れにて)、といったタイムリーな議論で湧き上がりました。

余談になりますが、行事委員が頭をひねった行事の 1 つが懇親会でした。大津市重要文化財に指定されている昭和 9 年建造の旧琵琶湖ホテルを利用したレストランを宴会場として借り切り、西洋料理のコースを頂くというちょっと贅沢な懇親会となりました。旧琵琶湖ホテルは海外からの旅行者や皇族を初めとする人々向けに大津市市街地を湖水越しに眺められる景勝地に建てられたもので、豪壮な建物とともに夜景の美しさが魅力です。あいにく当日夕方は強い雨にたたられてしまったものの、宴会後は雨が上がり、ほんの短い時間ながら、かつてここに宿泊した人たちが愛でた大津の夜景を眺めることができました。

大津大会では、会員の皆様のみならず、滋賀県防災危機管理局、大津市総務部総合防災課の皆様を始とする地元関係者の皆様にもご協力を賜って有意義な大会とすることができました。以上の皆様に厚く御礼申し上げます。

第 26 回歴史地震研究会大会行事委員(小松原琢・植村全博・西山昭仁)を代表して小松原琢が執筆しました。次ページに琵琶湖湖畔の白鬚神社で撮影した写真を掲載いたします。